

## 論考

クティブ・ヘルスサービスを提供することができるという理論です。セクシュアル・ヘルス／ライツなくしてセクシュアル・プレジャーは獲得できず、また、セクシュアル・プレジャーなくしてセクシュアル・ヘルス／ライツは獲得できない、すべては相互作用によって成り立っているという意味合いがあります。

そして、2019年にメキシコシティで開催された性の健康世界学会（World Association for Sexual Health：WAS）にて、全世界に向けてセクシュアル・プレジャー宣言が採択されました。

「セクシュアル・プレジャー（快感・快楽・悦び・楽しさ）とは、他者との又は個人単独のエロティックな経験から生じる身体的および／または心理的な満足感と楽しさのことであり、そうした経験には思考、空想、夢、情動や感情や感情が含まれる」と定義されています。

WHOから性の健康の概念が初めて示されてから約45年、性＝生きることの全てともいえる人権から、一歩踏み出した権利宣言がセクシュアル・プレジャー宣言です。

宣言においては、プレジャーが個々の性の健康と幸福に寄与する上で、重要な要素であるということ、そして、セクシュアル・プレジャーは、性の権利、中でも平等と非差別、自律性と身体保全の権利、健康と表現の自由において望みうる最高の権利という文脈の中で行使されるべきであるということ、さらに、性的経験がすべての人にとって肯定的な経験であり、他者の人権と幸福を侵害することによって得られるものでないと定義されています<sup>(4)</sup>。

ジェンダー平等を訴え始めた北京女性会議から25年。セクシュアル・プレジャーすなわち、個人的な悦びの集合体が、国際保健に寄与し、「誰も取り残さない」持続可能な開発目標SDGsを達成するために必要不可欠な概念であるということとを世界会議で宣言し採択されたということです。

(4) WAS [https://worldsexualhealth.net/wp-content/uploads/2020/02/2019\\_WAS\\_Sexual\\_Pleasure\\_Japanese.pdf](https://worldsexualhealth.net/wp-content/uploads/2020/02/2019_WAS_Sexual_Pleasure_Japanese.pdf)

### 3. セクシュアル・プレジャー宣言の重要ポイント

セクシュアル・プレジャーとは

- ①あらゆる人々にとって、楽しく安全な性的経験が可能である……他者の我慢や犠牲の上に成り立つ快楽は存在しない
- ②人間として当たり前の経験及び、主観的な幸福の一部をなす……快楽は当たり前の経験であり、主観的なものである
- ③人権としての性の権利……快楽は人権そのもの、性の権利そのもの
- ④多様な性的経験をする可能性が含まれる……多元的である。場合によってはリスクが伴うこともある（セクシュアル・ヘルス／ライツとの両立が理想ではあるが）
- ⑤世界のあらゆる場所において、教育、健康推進、サービス提供、研究、権利擁護に統合されるべきものである……万人のために研究追求されてゆくもの
- ⑥あらゆる場面に組み込み、個人のニーズ、要望、現状にあったものにする……より身近なものとして捉える。あらゆる政策においてセクシュアル・プレジャーの視点が盛り込まれる

### 4. ジェンダーギャップとセクシュアル・プレジャー

2019年12月17日に発表された世界経済フォーラム（World Economic Forum：WEF）による2019年のジェンダーギャップ指数（The Global Gender Gap Index：GGGI）は、153か国中121位でした。政治・経済・教育・健康の4部門について、男女にどれだけの格差が存在しているかを分析し、スコア化したものを基に各国の男女平等の順位をつけたものです。中でも政治分野は144位、経済分野は115位でした。これは、政治・経済分野の意思決定過程への女性参画が少ないということを反映しており、女性の労働力や生活、さらには女性の健康